

令和7年度 瑞穂野中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1)基本目標

人間尊重の精神を基盤に、豊かな心と個性をもち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる人間を育成する。

(2)具体目標（具体的な生徒像）

- 心身ともに健康で、気力あふれる生徒（強く）
- 自ら学び、創造性に富む生徒（賢く）
- 思いやりがあり、心豊かな生徒（明るく）
- 地域や世界に関心を持ち、未来を拓く生徒（拓く）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- ・人権や生命尊重を基盤に知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動を推進する。
- ・生徒は、学習や生活、行事や部活動等に目的や目標をもって取り組む中で、自己を振り返りながら、将来の夢や目標に向かって粘り強くたくましく生きる力を身に付ける。
- ・教職員は、自己に与えられた使命を自覚し自己研鑽に励み、校務のデジタル化や業務改善による効率化や簡略化を進めることで、心身ともに健康な状態で職務に取り組みながら、生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

スローガン **つながる 優しさ 思いやり たくましさ**

(1) 夢や目標の実現に向けて、安心して学ぶことのできる居場所のある学校づくり（強く）

- ・心身ともに健康で、自分のよさを発揮し、誰もが安心して学べる活力ある学校を推進する。
- ・教職員の和を基調とし、同僚性を高め、生徒と向き合う時間や自己研鑽の時間を確保し、業務の効率化を図り、取り組み、よりよい教育環境に配慮した安心安全で快適な学校づくりを推進する。

(2) 生涯学び続けることのできる資質・能力を身に付けられる学校づくり（賢く）

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、考えを表現する学び合い活動や振り返り活動を取り入れるなど、生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
- ・自分で考え判断する場の設定をして、情報を活用する力と課題を解決する力を育成する。

(3) 自信や自己肯定感を高め、思いやりがあり豊かな心を育む学校づくり（明るく）

- ・一人一人を大切に、生徒理解を基盤に、発達段階に応じた教育相談や適切な支援の充実を図る。
- ・豊かな体験や人と関わり合いを通して、優しさや思いやりにあふれる生徒の育成を図る。

(4) 地域の良さを知り、自分の良さを生かして未来につながる持続可能な学校づくり（拓く）

- ・一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、自己のよさに気付くとともに、多様な人々と協働して課題を解決していくことのできる資質・能力を育成する。
- ・地域人材や物的資源を有効に活用し、地域との連携・協働を一層深めるとともに、地域とともに歩む学校づくりを推進する。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育—
—言語能力を身に付け、他者と関わり合いながら、たくましく成長する児童・生徒の育成—

◎最重点目標：学習基盤となる態度や学習習慣の育成と基礎的な言語能力の向上

4 教育課程編成の方針

教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領の示すところに従い、本校教育目標の具現化を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう適切な教育課程を編成する。その際、確かな学力を育む教育、豊かな心を育む教育、健康で安全な生活を実現する力を育む教育、地域とともに歩む学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

『夢や希望に向かって挑戦するたくましい生徒の育成』

令和7年度 学校スローガン「つながる 優しさ 思いやり たくましさ」

・確かな学力の育成 ・居場所のある学校づくり ・地域とともに歩む学校づくりの推進

地域学校園ビジョン「生きる力」を育む知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動の実施と教科等

横断的な視点に立った資質・能力（学習の基盤・現代的な諸課題）の育成に向け、全職員が取り組むべき課題として共通認識し、業務の効率化を図りながら、課題の解決に組織的・計画的に取り組む。また、他者と関わり合いながら言語能力を身に付ける場面において、生徒の主体的な活動を促すとともに、「認め励ます指導」を充実させ、粘り強くたくましく成長する生徒の育成を目指す。

(2) 学習指導

○学習基盤となる態度や学習習慣の育成（地域学校園最重要目標）

・「確かな学力の育成」「主体的・対話的で深い学び」「学び合い活動や振り返り活動の充実」

・「宇都宮モデル」（はっきり、じっくり、すっきり）の指導の充実と各過程の質的向上

・1人1台端末を効果的に活用するなど、課題解決する力を高められるように、意見を交換し、学び合いながら考えたことを表現させる、学びを深めるための支援の充実

・自己の能力を最大限に発揮できるよう、特別支援教育の視点を取り入れた「よさを伸ばす指導」の充実

(3) 児童生徒指導

○いじめ・不登校対策の充実と特別支援教育の推進を通じた生徒の健全育成

・人権尊重を大切にした生徒指導・支援の充実、「認めて ほめて 励ます」生徒指導・支援の充実

・規範意識（SNSトラブル含）を高め、思いやりをもち、良好な人間関係を築ける生徒の育成

・早期段階からの不登校対策や学校復帰に向けた組織的対応の充実

・いじめを生まない指導・適切な対応や支援・不登校対策といじめを生まない指導・支援の組織的な対応。

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

○基礎体力の向上と健康の保持増進を図るための健康安全教育の推進

・元気アップ教育の一体的な捉えとデジタルを活用した健康教育の充実

・体力向上を目指した体育的活動の推進と運動機会の創出（体力向上）

・健康の保持増進を図るための健康相談や保健指導の充実（保健教育）

・望ましい食習慣の定着（朝食の欠食改善を含）を図るため、日常生活で実践できる食に関する指導の計画的配置と学校と家庭の双方向における指導の充実（食に関する指導）

・自身の安全を守るための判断力や実践力を育成するため、安全教育の充実（安全教育）

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>・生徒、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、教師が授業のねらいを明確にするとともに、生徒がじっくり考え粘り強く学習に取り組む場を設ける。</p> <p>・生徒の情報収集・活用能力の育成を図るため、各教科の授業の中で、グループ学習や生徒同士が対話を通じた情報交換の場を積極的に設ける。</p> <p>・家庭学習の指導やAI学習ドリルの活用などを通じて、家庭学習の習慣化を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>・生徒の肯定的回答は93.7%、教職員の肯定的回答は100%であり、どちらの指標においても数値目標に達したと同時に昨年度よりそれぞれ約3%上昇した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・生徒一人一人が、学習課題を解決するための情報収集および活用する能力を育成し、粘り強く学習に取り組める環境をグループ学習や生徒同士の対話をする場を効果的に設定する。</p>

<p>1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進</p>	<p>A 2 生徒は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・日常の学校生活や多面的・多角的に 考え、議論する工夫した道徳の授業を 通して、自分なりの考えを伝え合い、 実践する力が身につくような指導を 展開していく。 ・認め合える学級の雰囲気をつくり、 思いやりの心を育てる。 ・行事での振り返りや帰りの会等で思 いやりのある行動をとった生徒等の事 例を紹介、称賛することで啓発してい く。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.1%、教職員の 肯定的回答は 95.8%であり、どちらの指 標においても数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・「認めて 褒めて 励ます」生徒指導・ 支援の充実を図る。特に、道徳の授業の 中で自分なりの考えを伝えあうことや 行事の振り返りの活動等を通して、お互 いを認め合える雰囲気を醸成するよう 力を入れていく。</p>
	<p>A 3 生徒は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 85%以 上、教職員の肯定的回答 90% 以上</p>	<p>・学級活動では、自己の生き方を考え させるとともに、目標に向かって日々 努力することや諦めずに粘り強く学 習や運動に励み続けることの大切さ を指導していく。 ・学校行事を通し、自己実現可能な目 標を見出させ、目標に向かって粘り強 く取り組む力を高める指導を展開し、 達成感を味わわせる。 ・目標に対する取り組み状況を振り 返し、粘り強く取り組んでいる生徒を 称賛する。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.9%、教職員の 肯定的回答は 95.8%であり、どちらの指 標においても数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・学習面・生活面ともに、生徒一人一 人の目標達成のために、あきらめずに粘 り強く学習や運動に取り組むことがで きるように目標達成状況を教室に掲示し、 視覚化・明確化するなど、指導を継続す る。</p>
<p>1- (3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進</p>	<p>A 4 生徒は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 90%以 上</p>	<p>・授業での活動を通して、健康や安全 についての意識を高め、交通安全教室 や避難訓練、生活安全委員会で、実践 力を高める。 ・定期的に保健委員会が衛生検査を 実施し、健康面への配慮を促す。 ・定期的な登下校指導、安全点検等 を通して安全に生活できる環境作り に努める。 ・定期的に給食委員が給食時の身支 度・ランチョンマットの活用等検査や 呼びかけをし、安全面への配慮を促 す。 ・朝食の欠食指導について、保健だ より、給食だより、委員会等を通して、 継続的に指導していく。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であり、 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒自ら問題点を見だし、健康や安 全についての課題意識を高め、生活の改 善行動につなげるために各委員会での 活動を引き続き充実させる。</p>
<p>1- (4) 将来への希 望と協働す る力を育む 教育の推進</p>	<p>A 5 生徒は、自分のよさや 成長を実感し、協力して 生活をよりよくしようと している。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・様々な活動の場面（MBS、帰りの会の 振り返り）で、日ごろのよい行いをし ている生徒を認める活動を行う。 ・グループ活動を通して、お互いの意 見を認め合う取組を支援する。 ・学校行事などの活動を通じて、協 力して活動することの大切さを実感 できるように支援する。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.1%、教職員の 肯定的回答は 100%であり、どちらの指 標においても数値目標に達したと同時 に昨年度よりそれぞれ約 3%上昇した。 【次年度の方針】 ・学級活動や学校行事等を通じて、周囲 と協力したり、生活をよりよくしたりす る意識を高める活動に繋げる。 ・生徒会活動を活性化させ、自分たち の生活をよりよくする活動を取り入れ、 MBS 表彰に繋げる。</p>

<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業に ALT を積極的に活用し、言語活動の充実を図る。 ・授業中はもとより、給食時の会食の場においても ALT と英語でコミュニケーションをとるよう促していく。 ・授業でインタビューテストを行い、生徒が積極的に英語を用いて活動できる時間を増やしていく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.7%であり、昨年度より約 3%上昇したが、数値目標には達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒が英語を使い、コミュニケーション活動を多く行えるよう、授業内容を工夫すると共に、生徒会の行事やお昼の放送時のイングリッシュタイムを継続し、英語に親しむ機会を設ける。</p>
	<p>A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間での「宇都宮学」で、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ○地域の行事への参加を促し、宇都宮の良さを知る機会を増やすとともに各種たよりやホームページを通じて保護者にも取組の様子を伝える。 ・献立に地産地消の食材や郷土食、宮っ子ランチを用い、給食時の献立の説明等で宇都宮の農産物への理解・関心を深めさせる。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.5%であり、数値目標にわずかに 0.5%達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間での宇都宮学を教育課程上で年度の早期に位置づけ、授業参観等で生徒が学んだことを保護者に向け発表することで周知を図る。また、地域行事に参加することで、宇都宮や地域の良さを知る機会を増やすよう工夫する。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 80%以上、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等において、ICT 機器(1人1台端末)を積極的に活用し、学習効果を高める。 ・情報教育や総合的な学習の時間における調べ学習等で、ICT 機器の基本的操作や有効に活用する技能、図書等を活用する力を育成する。 ・授業等を通して、アプリを活用するために必要な基礎的な知識や技能を身に付けさせる。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 82.2%、教職員の肯定的回答は 95.8%とともに数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・多くの授業で学習課題を達成するために効果的に1人1台端末を使用し、生徒が自発的に学習のツールとして活用できる環境を作るとともに、学校教育活動を通して、学校図書館の利用を推進する。</p>
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を中心に「持続可能な社会」の実現に向かう具体的な取組を考えて、地域未来会議で協議、助言をもらい実行に移すよう促す。 ・各授業の中で、SDGs についての話し合い活動を意図的に取り入れ関心をもたせる。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.8%となり、数値目標には達しなかったが、教職員の肯定的回答は 95.8%で数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒に学校生活で「持続可能な社会」の実現のための取組で行えるよう、特に、生徒会活動での話し合い活動や話題の提供や啓発の仕方などを工夫する。</p>

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒について、個々の実情に合った個別の支援計画を作成したり、ケース会議を実施したりし、年間を通して適切な支援ができるようにする。 ・校内支援委員会や教育相談委員会を定期的に開催し、情報交換を行う。 ・特別な支援を必要とする生徒についての指導力を高めるために職員研修や SC による講話を年間スケジュールに位置付けるとともに、関係機関や SC・MS の支援を積極的に取り入れる。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、100%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・適切な支援を行うため、個別の支援計画の内容を充実させる。また、年間を通して有効に活用できるよう職員会議及び職員研修等で教職員の共通理解を図るとともに、校内支援委員会で見直しを行う。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 95%、保護者の肯定的回答 80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任は、いじめは絶対に許さない毅然とした姿勢で学級経営を行う。 ・生徒会が中心となって行う「いじめゼロ集会」を通して、「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識を持たせる指導を行い、いじめの未然防止に努める。 ・「いじめアンケート」では、いやな思いをしている生徒については組織で迅速に対応し、早期解決に努める。 ・道徳科の授業でいじめに関する共通課題を設定する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.7%、教職員の肯定的回答は 100%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 71.6%となり、数値目標には達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・いじめに関しては、早期対応で取り組みいじめ対策委員会等を通じ教職員の共通理解を図り、組織で対応するとともに、人権に関する学校行事等の取組を通じて、学校全体でいじめを許さない指導を実践していく。また、学校だより、ホームページ等を通じて保護者にも本校の取組を発信していく。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 90%以上、保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話を丁寧に聞き、気になる生徒にはこまめに声掛けを行う。また、保護者との連携を欠かさないようにする。 ・教育相談委員会を通して SC や校内教育支援センター支援員とも情報を共有し、家庭や市教育センター等関係機関とも連携しながら対応していく。 ・校内適応支援教室の充実と、全職員による生徒への支援を行う。 ・帰りの会や清掃の反省会などで頑張っている生徒を称賛する活動を行う。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.2%、教職員の肯定的回答は 100%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 82.9%となり、数値目標には達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・「認め・励まし合い・支え合う」居場所のある学級経営を実践していく。また、生徒一人一人の良さが生きようような学級経営のために、QU 検査や定期的な教育相談等で生徒の状況を把握し、教育相談部委員会や家庭・各機関と連携を図って迅速に対応する。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 90%以上、保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営や教育相談を充実させ、生徒に寄り添った関係作りに努める。 ・生徒一人一人が安心して活躍できたり、必要とされていることを感じられたりする関係作りを図る。 ・生徒自身が問題解決に取り組む中で、WEB・QU の活用や生徒の困り感への対応といった支援を行うことで、生徒の自己肯定感を高める。 ・三者懇談や教育相談・学級通信・ダイアリー等を通して、生徒一人一人の良さを認めて、褒めて、励ましていく。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.2%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 80.2%となり、数値目標には達しなかったが昨年度よりわずかに上昇した。</p> <p>【次年度の方針】 ・一人一人の生徒の心に寄り添うことを意識して、学級経営や教育相談にあたる。 ・生徒の主体性を大切に生徒会の運営を継続して進める。 ・学校・学年行事等で一人一人が活躍する場面を増やせるように努める。 </p>
<p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>			

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 90%以上、保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・宇都宮モデルを基に、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を学習活動に適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ・「一人一授業」公開を実施し、教員の授業力向上を図る。 ・習熟度別学習やT・Tなど指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かい指導を行い、基礎的基本的内容の定着に努める。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.4%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 78.7%となり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・宇都宮学モデルをもとに「わかる授業の授業」の実施を通して職員の授業力向上に努める。 ・個に応じたきめ細やかな指導を習熟度別学習やT・Tを活用しながら行う。 ・確かな学力の定着に向けて、5教科での朝の学習活動を取り入れていく。</p>
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 95%</p>	<p>・校長を中心とした「チーム学校」の考えのもと、ミドルリーダーを中心に、お互い協力し合いながら業務に取り組む職場環境を構築していく。 ・一人一人が「風通しの良い職場」を意識することで、各種会議等で情報の共有化を図るよう同僚性を高める。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書等と連携を強化して課題の解決に取り組む。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 87.5%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・「チーム学校」の考えのもと、様々な学校課題に組織的に対応するとともに、情報の共有化を図り、教職員一人一人の専門性を生かしつつ、協力し合いながら業務に取り組むなど、教職員の協働意識の向上に努める。</p>
<p>4- (3) 学校における 働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・管理職は教職員の出退勤時刻を把握し、時間外勤務の多い教職員に対して、個別に面談し、勤務時間の適正化を指導、助言していく。 ・みずほネットなど校務のデジタル化による業務の効率化、業務の精選、部活動方針の徹底など、教員の勤務時間の縮小に取り組む。 ・企画委員会や学年主任会、職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学校経営を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 83.3%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・勤務終了のアラームを鳴らすなど、タイムマネジメントを意識した働き方改革を実施する。また、同僚性のある共感的な雰囲気づくりや教職員間の対話を通して、業務内容の効率化を推進していく。</p>
<p>5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ・保護者の肯定的回答 80%以上、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>○小中一貫教育推進主任を中心に、学校間の情報交換や交流・連携を推進するために、各部会の運営方針を明確にし、分科会活動の充実に努める。 ・さくら連絡網や学校ホームページでの保護者・地域への啓発や校内でも事務室前の掲示板に「地域学校園コーナー」を設置して来校者に情報発信を行い、小中一貫教育への周知を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 87.5%となり、数値目標には達しなかったが、保護者の肯定的回答は 84.7%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育推進主任を中心に、学校間の情報交換や交流・連携を柔軟に行えるようにすることで、分科会活動の充実に努める。また、学校ホームページや地域学校園コーナーを充実させ、保護者への啓発及び小中一貫教育への周知を図る。</p>

<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ・保護者、地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○総合的な学習の時間において、地域の蛍水会の協力を得ながら、ホテルの飼育を行っていく。また、食農体験学習では、地域の農家の協力を得ながら、田植えからお米の収穫までの活動を行っていく。 ○社会体験学習を通して、地域の企業等と連携しながら、キャリア教育を進める。 ・各種たよりをさくら連絡網や学校ホームページで、または保護者会等で情報発信し、保護者・地域との連携を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 89.3%、地域住民の肯定的回答は 100%であり、どちらの指標においても数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・家庭や地域社会と連携して、「食農体験」や「蛍の飼育」など瑞穂野地域の特色を生かした教育活動を実践するとともに、取組の様子や成果を今後も学校だよりや地域協議会等で引き続き発信していく。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ・教職員、保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・安全点検を毎月確実にを行い、環境整備を心掛けるとともに、必要に応じた修繕をする。 ・教職員の危機管理意識を高めることで、危険な場所の早期発見と迅速な改善に努める。 ・整理整頓に努め、清掃が行き届いた校舎や体育館の維持、管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 88.9%となり、数値目標には達しなかったが昨年度より、3.0%上昇した。 【次年度の方針】 ・一人一人の教職員が日頃から安全に対する意識を高め、安全点検を確実にを行い、修繕箇所や危険な場所を早期発見し、迅速な改善に努める。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 95%</p>	<p>・1人1台端末を宿題等の連絡ツールとして、生徒が授業中や宿題などの課題学習を行えるようにする。 ・職員間での1人1台端末の使用に関する情報共有を学年会議や教科部会を通して、積極的に行う。 ・学校ホームページやさくら連絡網を活用して保護者や地域に積極的に情報を発信する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 91.7%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・職員間での端末に関する活用方法を学年会議や教科部会を利用しながら情報交換することで、職員一人一人がデジタルを活用できる機会を増やすとともに、ICTに関する研修を実施することで、指導力の向上に努める。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>○生徒があいさつしやすい環境をつくり、あいさつの大切さはもとより、あいさつの声飛び交う明るい学校づくりの一員として行動させる。 ○生徒会執行部や生活安全委員があいさつ運動を行う。 ○授業前後のあいさつを丁寧に行う。 ○瑞穂野地区まちづくり協議会と協力して小中一貫のあいさつ運動を継続し、積極的なあいさつを啓発していく。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.7%、教職員の肯定的回答は 100%で、ともに数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・時と場に応じたあいさつができるように、状況に応じて指導することを継続していく。生徒主体のあいさつ運動や、地域学校園のあいさつ運動を充実させる。</p>

<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>・生徒、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・生活安全委員会を中心に身だしなみ点検を行う、また、校則改正を生徒会執行部を中心に取り組み、生徒が主体的にきまりを守るように促していく。</p> <p>・生徒指導委員会で示された方向について教職員が共通理解を図り、同一歩調で指導を行い、きまりやマナーを守るように支援する。</p> <p>・誤った言動をした生徒を見過ごさず、指導を適切に行うことにより、規範意識を高めていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・生徒の肯定的回答は 98.0%、教職員の肯定的回答は 95.8%で、ともに数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・きまりやマナーについて、教職員間の共通理解を図り、同一歩調で指導に当たる。また、生徒会を中心とした取組を引き続き推進し、生徒自ら問題点や課題を見だし、改善していける主体的活動を支援する。</p>
<p>B3 教職員は、言語能力の育成を図るために、言語活動の充実に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>○教師が、話し合い・発表の場面において、生徒が考えを表現するための方法を事前に準備し、計画的に実施する。</p> <p>○教師が、振り返り活動において生徒が適切な言葉で表現したり、根拠をもって考えを述べたりできる環境を整える。</p> <p>○生徒が適切な言語活動を行っている時には称賛し評価をする。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・教職員の肯定的回答は 95.8%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・生徒一人一人が、話し合い・発表の場面や振り返り活動の中で根拠をもって考えを述べ、また、考えを表現できる場を設定し、支援する。</p>
<p>B4 学校は、生徒が意見を表明する機会の確保に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>・生徒、教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>○学級活動や学校行事等において生徒が話し合う機会を設け、生徒の意見を尊重しながら学級経営に取り組む。</p> <p>○生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自主的・自発的活動を促す。</p> <p>○学校生活のきまりの見直しや生活環境の改善について、生徒の意見を取り入れながら、学校生活の質の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・生徒の肯定的回答は 92.6%となり、数値目標には達しなかったが、昨年度より、1.9%上昇した。教職員の肯定的回答は 95.8%で数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・生徒が意見を述べたり話し合う機会を意図的・計画的に設け、より主体的に実践していく意欲を高める方策(実践方法・振り返り)を今後も工夫する。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

〔数値指標に対する評価から〕

・宇 22 項目 (A1～A20、B1、2) において、調査した全対象者 (生徒・教職員・保護者・地域住民) から回答を得た全 63 項目のうち、肯定的回答の割合が 80% を上回った項目は 58 項目 (全体の 92.1%) であり、昨年度より、12.7% 上回った。市の平均を上回っている項目 (同率含む) が 46 項目 (全体の 73%) であることから、本校の教育活動が全体的に肯定的に受け止められていると捉えられる。

〔経年変化による評価から〕

・A2 生徒の思いやりを持つや A11 いじめが許されない行為である指導に関しては、昨年度より、生徒の肯定的回答は上昇した。
・地域住民の項目に関しては、すべて 100% であったため、今年度の取り組みにおいて一定の評価を得ることができた。
・A9 持続可能な社会への関心については、地域未来会議でも議題に取り上げたこともあり、生徒、教職員とも感じ昨年度より評価が大きく上昇した。

○学校独自の取り組みにおいては、B1「時と場に応じたあいさつ」、B2「きまりやマナーを守る」、B3「言語能力の育成」において、共に目標数値指標を越えたものの、B1「時と場に応じたあいさつ」においては、生徒の肯定的回答の割合が昨年度より下がっていることから、生徒が進んで挨拶を行えるよう取り組みの改善が望まれる。B4「生徒の主体的な活動の促進、学校生活の向上」においては、生徒の肯定的回答において、目標数値指標を下回ったが、昨年度より、1.9% 上昇したことから、生徒の主体的な活動が行えてきた結果が出ていると言える。しかし、保護者の肯定的回答が昨年度より若干下がってしまったため、学年だより、ホームページで情報発信するとともに、保護者会等の在り方を改善していく必要がある。

〔今年度の重点目標等の視点から〕

・「学校運営」では、年間を通して「つながる 優しさ 思いやり たくましさ」のスローガンのもと、生徒、教職員のウエルビーイングのため教育活動を推進してきた。特に「協力して生活をよりよくしようする」について A5「自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくする」については教職員の評価は 100% であった。全職員が重点目標であることを意識し、各行事等で毎回目標を設定させ、廊下等に掲示し、意欲を高めたり、振り返りについても掲示したり指導を徹底したため、生徒の肯定的回答も市の平均を上回った。課題は、生徒が「何が課題」で「何を学び、どのように考え」そして今後「どのように活かしていきたいか」が明確になっていなかったり成長を自覚していなかったりするところがあると思われる。行事や教育活動の「ねらい」をしっかりと示し、生徒の変容を捉え、生徒自身にフィードバックし、保護者や地域に伝えていくことが必要である。

・「学習指導の充実」では、A1「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」の項目において、教職員、生徒とも市の平均より、肯定的回答が上回ったが、A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」は教職員、生徒とも市の平均より、肯定的回答が下回った。理由としては、様々な学習の場面で「書くこと」キャンペーンを意識し、思考力・判断力・表現力の育成を図り、主体的に学習に取り組む姿勢は見についてきたが、書くことに苦手意識を感じてしまった生徒もいたためと思われる。次年度も継続して、計画的に各教科で書く時間を設けていきたい。

・「生徒指導」では、A11「いじめを生まない指導」において、日頃から生徒、教職員、保護者のそれぞれの相互関係をよくしていく中で、早期発見・早期対応 (特に初期対応) を行う。また、「チーム学校」として組織で取り組むことで保護者の方に一層の理解を得られるようにする。

・「健康管理」では、A4「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」の項目で、生徒は、肯定的回答が市の平均を上回り、教職員は 100% であったが、保護者は、若干下回ったが、年間を通して本校の重点項目である健康の保持増進を図るための健康相談や保健指導の充実として、各種健康診断後に継続して受診勧奨を行ってきたこと、さらに年 2 回「元気っ子生活習慣チェック」により、生徒に健康な体作りの意識を向上させた成果の結果だと思われる。また、安全管理の面でも年 2 回、地震、不審者対策の避難訓練や交通安全教室の実施により、安全に関する意識を高めるよう努めてきた。

・「学校の特色ある教育活動」では、ESD に関する A9「持続可能な社会への関心」、A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実」についての生徒の肯定的回答において、市の平均をほとんど上回った。次年度はさらに家庭や地域との連携を深めていけるように、学校教育活動に参画していただけるよう工夫していきたい。

〔教職員分析から〕

・A5「自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくする」については教職員の評価は 100% であり、生徒の評価も 93.1% と共に市の平均を超え、昨年度より値が上昇した。これは、全職員が生徒の居場所づくりに重点を置き、「認めて褒めて 励まして」の教育の充実に努めた成果と思われる。

・A1「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」の項目においても、教職員、生徒、保護者とも市の平均より、肯定的回答が上回り、昨年度よりも値が上昇した。A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」は教職員、生徒とも市の平均より、肯定的回答が下回わり、昨年度よりも値が下がった。今年度は思考力・判断力・表現力の育成を図り、「書く」力をつけることに重視したため、より苦手意識を感じてしまった生徒もいたためと思われる。そこで、今後は、各時間を定期的に設け、継続して取り組むことで、抵抗感をなくしていきたい。

・A11「いじめを生まない指導」、A12「不登校を生まない学級経営」において、生徒、教職員ともに、市の平均を越え、また、昨年度よりも値が上昇した。今年度は、全職員で早期発見・早期対応を行い、また、教育相談等で、子供の声に丁寧に耳を傾けた成果と言える。今後も保護者とも連携し、一層の理解を得られるようにしていく。

7 学校関係者評価

- ・ほとんどの評価項目で市平均を上回る結果となっており、生徒が学校生活を充実して送っていると感じられる。また、生徒指導面での教職員、生徒の努力の跡が伺える。
- 瑞穂野中の生徒は、来校すると元気にあいさつをしてくれる。B1「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」項目で生徒と保護者の評価が昨年度より下がっているため、今後は地域との連携による挨拶運動による啓発と学校での活動を効果的に行うとよいと思う。
- ・A9「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」については、生徒の肯定的意見が数値目標に達成していないものの地域未来会議における提案発表や生徒の意見交換で関心や理解が深まっていると感じるため、これからも継続して行っていくとよい。
- ・A11「教職員はいじめが許されない行為であることを指導している。」、A12「教職員は不登校を生まない学級経営を行っている。」について教職員の肯定惠的回答が100%なので、安心である。生徒は思春期の時期なので、これからも気配りをしただけだとありがたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体アンケートでは、本校の教育活動や学校運営について肯定的に評価されていると捉えられるので、次年度も活動の見直しや工夫をしながら更なる充実を図っていききたい。
- ・「確かな学力の育成」をはかるため、「わかる・できる」授業実践を宇都宮学モデルをもとに実施して職員の授業力向上に努めていきたい。また、個に応じたきめ細やかな指導を習熟度別学習やT・Tを活用しながら行っていく。さらに、確かな学力の定着に向けて、5教科での朝の学習活動を取り入れていく。
- ・今年度は「つながる 優しさ 思いやり たくましさ」のスローガンのもと「認めて 褒めて 励まして」生徒の居場所づくりを全職員で取り組み、居場所と活力ある学校づくりに努めてきた。今後も行事・生徒会活動等を中心に生徒の良さを生かした活躍の場を設定したり、自信を持って励ましたりして、生徒の自己肯定感を高める指導を継続していききたい。
- 今年度も地域のボランティア活動などの体験活動を通して、生徒は地域に対する郷土愛を育み、心を豊かにする体験をする。
- 今年度は、特に地域の方々に学校行事や土曜授業で参加していただく機会を増やしたことで、生徒と地域の結びつきを深めていきたい。
- ・地域未来会議において「SDGsを意識した校内活動を活性化するためにできること」を考え、地域の方に助言をもらうことによって、生徒の自己有用感、自己肯定感を高める教育活動を展開していききたい。
- ・いじめ対策については、全教職員一丸となり、共通理解、情報共有のもといじめ等の問題行動の未然防止や早期発見に努める。また、生徒会を中心とした「いじめゼロ集会」「人権集会」などの継続的な取組をさらに充実させ、今後も継続して取り組んでいきたい。いじめ対策について、保護者会、学年だよりなどを通じて周知・説明していく。
- ・不登校対策においても「認め・励まし合い・支え合う」居場所のある学級経営を実践していくことで、生徒一人一人の良さが生かす指導を徹底してきた。今後も、継続してQU検査や定期的な教育相談等で生徒の状況を把握し、教育相談委員会と検討し、家庭・各関係機関と連携を図って迅速に対応していく。